

真岡東中3年油原美夢さん 空手道選手権で3位入賞

ゆはらみゆ



9月18日(土)、19日(日)に群馬県高崎市で行われた「第63回小学生・中学生全国空手道選手権大会」において、日本空手協会真岡支部所属の真岡東中学校3年生 油原美夢さんが、中学生女子団体形で第3位に入賞しました。
これを受け油原さんは、10月4日(月)に市役所を訪れ、石坂市長へ大会の結果を報告しました。

真岡キッズハーモニークラブ 真岡東中学校がW金賞



9月30日(木)、「第21回東日本学校吹奏楽大会」への出場を果たした真岡小と真岡東小の合同チーム「真岡キッズハーモニークラブ」と真岡東中吹奏楽部の代表者が市役所を訪れ、石坂市長と面会しました。
両チームは10月9日(土)、10日(日)に札幌市で開かれた大会において実力を発揮し、2チームとも最高賞に当たる金賞を受賞しました。

地域公共交通に関する 地区説明会



10月18日(月)から10月22日(金)の期間、市内4カ所において、地域公共交通に関する地区説明会を開催しました。
この目的は、今年3月に策定された「真岡市地域公共交通計画」に基づき、周辺地域と中心市街地をつなぐ新しい交通手段や移動支援策の導入について話し合うため、今年度2回目の開催となります。
10月18日(月)には、中村分館で説明会が行われ、新しいコミュニティバス路線の実証運行の実施や、いちごタクシーのサービスの拡充など、中村地区における新しい交通手段や交通支援策の導入案について説明がありました。
地区の住民からは「新しい停留所を各公民館周辺に作ってほしい」、「1周を短くして、運行回数を増やしてほしい」といった意見がありました。
説明会終了後、希望者を対象としたいちごバスの試乗会も行われ、担当職員から乗車の仕方や車両についての説明がありました。



10月29日(金)、真岡女子高等学校創立110周年記念式典が行われました。
式典には、石坂市長や歴代校長、PTA会長、同校の2・3年生が出席しました。
同校は「強く、美しく」という校訓のもと、芳賀地区の女性教育の拠点として、次世代を担う人間の育成に取り組んでいます。

真岡女子高創立110周年を迎える



10月29日(金)、真岡女子高等学校創立110周年記念式典が行われました。
式典には、石坂市長や歴代校長、PTA会長、同校の2・3年生が出席しました。
同校は「強く、美しく」という校訓のもと、芳賀地区の女性教育の拠点として、次世代を担う人間の育成に取り組んでいます。

交通安全の横断旗を寄贈



11月1日(月)、マールフィルトアーティスト労働組合栃木分会 木村賢分会長、佐藤哲平前分会長、こくみん共済COOP栃木推進部 大木将史さんが市役所を訪れ、教育委員会に横断旗を500本寄贈しました。
この取り組みは、こくみん共済COOPの「7才の交通安全プロジェクト」の一環で行われているものです。
横断旗は、今後登下校時や交通安全教室などで、幅広く活用される予定です。

「若者に選ばれるまち」を実現するために

10月16日(土)、市役所で「もおか若者会議(仮)」の第1回目のキックオフミーティングが行われました。この会議は、将来の真岡市が「若者に選ばれるまち」となるための方法について考えるものです。
この日は、宇都宮大学の鈴木富之講師から、人を呼び込むにはその地域ならではの「資源」を生かす必要があると講義がありました。
その後行われたグループワークでは、「市の強み・弱み」と「10〜20年後の将来像」について、班ごとに意見をまとめました。意見発表では、いちご日本一のまちであることを生かす、いちごの農業体験を行うことや、首都圏と気軽に行き来ができれば、地域に賑わいが生まれるという意見がありました。
第2回目では、先進事例を踏まえ、真岡市特有の「地域資源」について考えていきます。



水沼尚輝選手が母校を訪問

11月2日(火)と4日(木)、東京五輪で活躍した競泳の水沼尚輝選手が、大会後初めて帰省し、母校の山前小・中学校を訪問しました。
この訪問は、真岡市スポーツアンバサダーとしての活動も兼ねており、講演などを通じて子どもたちと交流しました。
真岡市HP
スポーツアンバサダー



教育委員会委員を紹介します

10月1日付で、邑樂美智子さんが新たに教育委員会委員として任命されました。任期は令和7年9月30日までの4年間です。
邑樂委員には今後、教育委員会において、本市教育行政の課題についてご意見をいただきます。



まち・ひと・しごと創生総合 戦略推進市民会議を開催

10月11日(月)、市役所で「真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進市民会議」が行われました。
この会議は、選ばれるまちもおかを実現するため策定された「真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における各事業の進捗状況を踏まえ、委員からご意見等をいただくもので、今後の事業推進に役立てられます。
この日は、市の担当者から人口の増減や人口対策に関する事業の取り組み状況が伝えられました。
委員からは「真岡市に住みたい若者世代が気軽に相談できる移住窓口を設置してはどうか」や「二宮地区にも公共交通ネットワークを広げてほしい」、「コロナ禍で行き場のない親子のために、コロナ禍であっても遊べる場があるとよいのではないか」といった意見がありました。

